



少子化時代の到来を踏まえたこれからの高等教育の未来について ～「知の総和答申」を踏まえて～

講演 大森 昭生 氏 共愛学園前橋国際大学学長



1996年に学校法人共愛学園に入職、共愛学園前橋国際大学国際社会学部長、副学長等を経て、2016年より現職。
文部科学省や内閣官房など政府の各種委員のほか、中央教育審議会では大学分科会、同高等教育の在り方に関する特別部会（副部会長）、教育振興基本計画部会をはじめ各種委員を歴任。2025年度からは、文部科学省の「地域大学振興に関する有識者会議」の座長に就任。
地域では群馬県青少年健全育成審議会会長、群馬県教育振興基本計画策定懇談会座長、県都まえばし創生本部有識者会議座長等各種公的委員を多数務める。
群馬県総合表彰（男女共同参画分野）、群馬県男女共同参画社会づくり功労者表彰。全国の学長が注目する学長ランキングで2025年度まで4年連続1位（『大学ランキング』）。

開催日時

2025年 **10月4日** 土 13:00-16:30

開催場所

創価大学中央教育棟 ※講演はAB102教室

プログラム

13:00 ~ 14:30	分科会	(詳細は次ページ)
14:30 ~ 15:00	休憩	
15:00 ~ 15:05	挨拶	西浦 昭雄 副学長
15:05 ~ 16:25	講演	大森 昭生 氏 (共愛学園前橋国際大学 学長)
16:25 ~ 16:30	閉会挨拶	鈴木 美華 学長

後援：文部科学省

【お問い合わせ】創価大学 学習支援課

〒192-8577 東京都八王子市丹木町 1-236 TEL：042-691-7009

URL：https://www.soka.ac.jp/seed/ Mail：seedfd@soka.ac.jp



アクセスはこちら

<https://www.soka.ac.jp/access>



申込みは
こちらから

教室 **AC532** 教育学部企画

主体的な学習態度を育むための学習観を揺さぶる学びほぐしの試み

初年次セミナーの抜本的な改革を通して

教育学部 **舟生 日出男氏**（教授） **戸田 大樹氏**（准教授）
上山 伸幸氏（准教授） **津田 真秀氏**（講師）

教育学部では、近年の急激な学生の変化に応じ、学生の自律的な学びを促すために、認知科学の知見に基づき、学生たちの学習観を揺さぶる初年次教育の抜本的な改革を2025年度に実施した。具体的には、義務的・個別的で知識伝達型の学習観をほぐし、本当の学びは協同的・社会的な実践であること、さらに間違いを恐れず、むしろ学びを深めるための重要な行為として捉えることを理解させる。本分科会では、その成果について報告し、参加者と共有する。

教室 **AC533** 障害学生支援室企画

適正な合理的配慮に向けた 関係者間の合意形成について

障害学生支援室長 **山崎 めぐみ氏**（学士課程教育機構 教授）

学生の配慮希望の調整について、授業、学部・学科、大学として学生に身につけてほしい能力をふまえつつ、関係者間の合意形成に向けた話し合いの必要性について考えたい。

教室 **AC534** CETL・システム支援課企画

生成AIを活用した実践事例と 学内システム・サービスの有効な利活用について

【進行】CETL 副センター長 **小島 健氏**（経済学部 准教授）

教員による生成AIを活用した実践事例を共有し、教育改善への具体的な展開を探る。あわせて、学内システム・サービスの利活用に関する基礎的な情報を担当部署より紹介する。

教室 **AC531** 学士課程教育機構企画

本学における機構の役割と 学士課程教育の今後について

学士課程教育機構長 **関田 一彦氏**（副学長・教職大学院 教授）

2000年に発表された『教育提言』において、本学創立者は教養教育の拡充を柱にした新たな大学教育に期待を寄せられた。折しも2002年には「新しい時代における教養教育の在り方について」と題する中教審答申が出され、さらに2008年にはこの答申の具体化を進める「学士課程教育の構築に向けて」という答申が取りまとめられた。本学がこの学士課程答申を受けて2010年に学士課程教育機構を開設してから本年で15年となる。そこでこの節目に、25年前の創立者からの宿題を再確認し、2030年に向けた本学の新たな教養教育の構築について学士課程のあり方を参加者と共に考えてみたい。